平成 22 年12月 1 日
第 43 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

景観形成花壇

冬の花「パンジー」に植え替え



50 本のパンジーのポットを色合いとバランスを見ながら、花壇に配置

今年の猛暑にも堪え抜いた八方原の環境を守る会の景観形成花壇。さすがに霜も降りるようになってきて、花も終わりに近づきました。11月28日冬から春の花「パンジー」に植え替えしました。

来年秋の国民体育大会に向けて、いろいろなところにサルビアなど指定された花が植えられていますが、冬の間はこのパンジーに頑張ってもらうことにしました。

◇◇◇ 老朽化した仕切板を改修 ◇◇◇

一昨年の水害などで傷んでいた、岩屋地区や当地区北側の排水路にある水門仕切板を修理しました。これは北側排水路と地区農業用水を仕切るためにあるものですが、相次ぐ集中豪雨などでこの水門の開閉について検討が行われています。

植物本来の能力を引き出す

エンドファイト

植物の内部から働きかける微生物

弘前市で奇跡のリンゴを育てたとして一躍全国にその名前を轟かした木村秋則さん、無肥料無農薬で育て上げるリンゴは収穫後も腐敗しない不思議なリンゴと言われています。

ただ無農薬自然栽培だからであればできるのかと言うと、とんでもない話しで除草や害虫駆除に日夜を問わず追われることになります。木村さん悩んだあげく思い詰めて、夜の山にひとり登ります。しかし、そこで手にした自然の土の力強さに気づいたのです。

そして土づくりに猛然と挑み、数年間の失敗を乗り越えて、「奇跡のリンゴ」を世に登場させたのです。

そこには科学的な根拠があるようです。「エンドファイト」という言葉はあまりきき慣れませんが、植物の内部に入り込んである種の遺伝子を活性化させる微生物のことをさす言葉です。

植物本来が持つ強い遺伝子が、長い間の人工栽培でその役目を失った状態となり、眠ったようになっているものを呼び覚ますという状況を作り出すのです。それにより病原菌の働きを押さえ込み、本来の機能を取り戻すことができるとされています。

微生物と植物の共生による「環境保全型農業」として先進的な取り組みが各地で行われているようです。北海道の美唄農協では、稲作に実験的に応用しています。

ただ場合によると生態系の錯乱を引き起こす可能性もあり、使用については十分な検証が必要だとも言われています。「エンドファイト」が農作業を変えるかも知れません。

※11月1日放送のＮＨＫ総合テレビ「クローズアップ現代」を参考

区からのお知らせ

市内通話の範囲が広がります

市では市内電話の範囲を変更する作業を行っています。これは合併により同じ市内になっても市内通話の範囲が昔のままという状況を改善してほしいという市民の声に応えるものです。

市内通話は3分間8.5円ですが、山口市北部にかけると市外通話となり3分間20円となります。予定では阿知須と徳地は宇部と防府との結びつきが無視できないので、今回の市内通話範囲には含まれていません。旧山口市、小郡、秋穂、阿東を含めて0083の市内通話エリアとするものです。



いい話しだけではなく、料金が上がる部分もあります。市内加入者の数で電話の基本料金が算定されているために加入者が増えた分、ダイヤル回線使用加入者については基本料金が100円程度上がるもようです。（IP電話、光回線などのデジタル回線使用者は変更ありません）しかし、新しい市内通話を数本利用すれば「元を取る」ことになりますから、あまり問題にならないのではないかなと考えています。

市では地域内の同意を得て、NTTや総務省に変更の申請を行う予定としており、区長宛に同意書の用紙が届いています。区長としてはこの変更に同意したいと思っていますが、ご意見のある方は、12月中にお申し出いただきますようにお願いします。

区長　原田茂樹

☎090・3375・5384

今年も大活躍「八方原グループ」

おごおり文化祭



地元の方も多数利用した「生改連うどん」

11月3日小郡地域交流センターを中心に「おごおり文化祭」が行われました。福祉まつり、健康まつり、消防まつりも並んで行われ、多くの来場者が訪れました。

八方原地区からは「生活改善グループ」がうどん、「朝市グループ」が生鮮野菜を販売しました。

うどん販売メンバーは朝から大忙し、休む間もないような有様。生鮮野菜は早々に売り切れという人気ぶり。また地域交流センターで活動しておられる個人の方々もステージで大熱演でした。みなさんご苦労様でした。



900食完売、ほっと一息の生改連メンバー

さまざまなバザーが出展していましたが、やはり一番の人気は食べ物、食べ物と人出は比例するようです。

「サツマイモ」キング



金賞となった八方原子ども会のサツマイモくん

市子ども会小郡支部は、毎年各地区子ども会の育てたサツマイモを集めてコンテストをしています。今年もおもしろい形のサツマイモが、文化祭で展示されました。

コンテストの中心はその大きさです、毎年好成績の八方原地区ですが今回は1550グラムと圧倒的な大きさで「金賞」となりました。

子ども会の半年間の努力が実りました。メンバーのみんな、保護者のみなさんおめでとうございます。



なかにはこんな形をしたものも